

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0572609238	
法人名	有限会社 若竹	
事業所名	グループホームやすらぎの家 2号館	
所在地	秋田県仙北郡美郷町畑屋字狐塚213-3	
自己評価作成日	令和 3 年 8 月 18 日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	秋田県社会福祉士会	
所在地	秋田市旭北栄町1番5号	
訪問調査日	令和 3 年 9 月 13 日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>・毎月のホームのお便りの他、個々の様子をまとめた写真や健康情報、担当職員からの直筆の手紙等もご家族様に送付している。又、希望があれば、ご本人様とご家族様の許可のもと、兄弟や親類、友人の方へもお便りと写真を送付している。</p> <p>・社内に各種委員会を設け、毎月1回全職員が参加しての合同研修を開催している。その会議の場で外部研修の報告も行っており、全職員が情報を共有し、スキルアップと利用者様へのケアに繋げられる体制をとっている。</p> <p>・年間行事は、準備段階から利用者様と職員が協力して、手作り感ある催し物を開催している。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>周囲は田んぼに囲まれ見渡しの良い景色の中にあります。館内は家庭的な雰囲気があり、利用者や職員がよい関係性を築きながら日々の生活を送られています。利用者や家族が望めば、主治医等との連携を図りながら看取り介護を実践しております。吸引や胃瘻、鼻腔栄養等の医療依存度の高い方の受入れは出来ないものの、看護職員を配置し出来る限りの対応に努めています。事業所の理念である「ひとりひとりが笑顔の一日」を職員一人一人が意識して、利用者・職員・家族・地域住民が笑顔で過ごせる事をケア理念として掲げ実践しています。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者・家族・地域の方々・職員も「ひとりひとりが笑顔の一日」であるようにとの思いで、代表者を始め、職員一同理念の実践に取り組んでいる。	「ひとりひとりが笑顔の一日」という事業所理念を、代表者、職員一同共有し、日々のケアにあたっている。新人採用研修においても理念の理解、指導・教育に努めている。	既存の理念を大切にしながら、今後地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、職員で検討頂くことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入は集落の一部の同意が得られず未だ、見送られている。しかし、避難訓練などには地元消防団や近所の方々にも参加して頂いており、一定の理解を得られている。	地域の方々との交流は良好で、採れたての新鮮野菜が届いたり、お茶を飲みながら話に来てくれる方もいる。年に2回の避難訓練にも参加いただいている。今後、更に地域の方々に、認知症の理解をすすめて行くことが施設の役割との事。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	以前は職員が認知症サポーターとして、地域の方々に認知症の講習会を開催していたが、職員の入替わり等もあり、現在は実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症予防のため、現在は書類にて開催している。報告書でホーム内の様子をお伝えし、ご意見を頂いている。頂いたご意見をサービス向上に役立てている。	運営推進会議には利用者が参加しており、家族には案内を出し、参加されない場合は文章で意見を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、それ以外でも不明な点がある場合は連絡を取り合い、相談し意見を頂く等して取り組んでいる。	不明な点や相談したいことは電話で担当と話しをしたり、町の庁舎も車で10分位のところにあり、顔の見える関係でよく連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内に身体拘束適正化委員会を設置し月1回の合同研修の際、職員がケアについて確認し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月職員会議が行われている。身体拘束適正化委員会・虐待対策委員会で施設内研修を行い、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。会議録、誓約書を確認。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会・虐待対策委員会を中心に、施設内外の研修を行い、月に1回合同研修で報告し確認し合っている。また、虐待対策委員会からの勉強会も開催し、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援制度を利用されている利用者様が今後成年後見制度を利用されるので、勉強会も行っているが、実際に関わりあいながら学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書と重要事項説明書・重度化した際の指針を元に、利用者様、ご家族様に十分な説明を行っている。疑問点などについても、理解し納得のいくまで説明を行っている。改定の際にもその都度十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との信頼関係を築き、気軽に発言しやすい雰囲気作りを心掛けている。ご家族様とはモニタリング表や電話にてご意見やご要望をお伺いする機会を設けている。	家族にはモニタリング表を送付する他、電話にて意見・要望を伺い、ケアに反映する他、利用者とは日々の会話や様子で要望をくみ取り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケア会議の中で職員からの意見を聞き意見交換を行っている。また、職員からの意見を可能な限り反映させている。	合同研修、日々のケア会議で提案が出たり、職員個々から直接管理者に話があることもある。可能な限り反映、実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算金の支給に伴い、毎月個々で1ヶ月間の自己評価及び来月の目標をたて、各自が向上心を持って取り組める様に努めている。又、資格取得にも積極的に努めており、その為の支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の他にも、外部の研修への参加も積極的に勧めている。参加後はレポートを提出し、合同研修で発表する機会を設け、他の職員に周知することで知識、技術の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて、地域の同業者と交流する機会を持ち、さらなるサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントにより、ご本人様から話を聴く機会をつくり情報を入手し、サービスを導入する段階から安心して利用して頂けるための環境や関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のご要望、不安に感じていること等を初期の段階で十分に受け止め、信頼関係の構築に努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	親であったり、時には子であったりと家庭的な関係を築き、ホームの理念である「ひとりひとりが笑顔の一日」であるようにとの思いで関係の構築に努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との情報交換を密にしており、また定期的な外出や受診の付き添い、催し物への参加等の協力を頂きながら、共にご本人様を支えていく関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類、知人、近所の方が気軽に来所できる環境にある。また、馴染みの理髪店に散髪をしに行ったりとこれまでの関係が途切れないように支援している。	家族対応の通院時、理髪店や外食など馴染みの関係を大事にできている。コロナ感染予防の為、施設玄関にパソコンを設置し、オンライン面会や自宅からのオンライン面会にも対応している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が会話の橋渡しや間を取り持つことで、一緒に家事手伝いやレクリエーションに取り組むなど、お互いに良い関係を保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所中に亡くなられた方の葬儀に職員が出席したり、入院等で退所された方のご家族様に、いつでも相談にのりますと助言しアフターフォローにも努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切にし、ご本人様の行動や日常の何気ない会話の中から、思いや意見をくみ取っている。困難な場合にはご家族様と話し合い、ご本人様本位に検討をしている。	ケアプランは本人、家族それぞれの思いや目標が明記され、介護者の支援方針も明確に書かれている。説明し、同意を頂いている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報だけでなく、その後のご本人様との会話、ご家族様との情報交換等を通じてこれまでの暮らしを把握するように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや各記録物、ケア会議、アセスメントを通して一人一人の現状を把握するように努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新の際にサービス担当者会議を開催し、ご本人様やご家族様の意見を取り入れている。また、担当職員だけでなく職員全体で意見を出し合う機会を設け、ご本人様にあったケアプランを作成している。	担当者会議録を確認。担当だけでなく職員全体の意見も盛り込まれている。看護職員は必要に応じて参加しているとの事。	担当者会議において様々な職種の視点を踏まえる事はとても重要であると思うので、看護職員の担当者会議への参加の機会を増やしていける事を期待します。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護計画に沿って介護記録に記入し、実施の有無も記入している。それ以外でも変化や気づきがあった場合は業務日誌で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練の際、消防署や消防団と連携をとったり、往診時にはかかりつけ医と相談しながら、ご本人様を支える体制を整えている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、入所前からかかっていた医療機関への通院を行っている。ご本人様、ご家族様の希望に沿った適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の往診は月1回あるが、入所前のかかりつけ医との関係を大事にし、本人・家族に選択してもらっている。通院は町内であれば職員対応が可能。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間での気づきや変化を、看護師に伝え指示を仰ぎ、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関、ご家族様との情報交換を密にして、入院前の状態を医療機関に情報提供するなど努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や、終末期のあり方を説明し、希望するご家族様からは書面で同意を得ている。状態に変化があった場合はご家族様と今後の方針を話し合い、担当医と連携してチームで支援に取り組んでいる。	「重度化に向けた場合における対応にかかる指針」を確認。家族と今後の方針を話し合っている。看護職員はオンコールで24時間対応となっており、希望者に対しては主治医等と連携し看取りも行っている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	合同研修の際、応急手当についての研修を行っている。又、常時全スタッフが目の届く所にファイルにとじて保管し都度確認するようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様を交え、消防署や地域の消防団、近隣の方々の協力を得て避難訓練を実施している。又、毎月職員会議の際に職員のみでも避難訓練を行っている。	年2回消防署、地域住民立会いの避難訓練が行われている。その他、毎月の合同会議で避難訓練の役割、行動などを再確認している。また、非常食を3日分備蓄し発電機や反射式ストーブも備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	以前の職業や生活歴などを把握し、一人ひとりに合った言葉掛けやご本人様を尊重した対応を心がけ、誇りやプライバシーの確保に留意している。	入所時のアセスメントを十分行うことで、生活歴や現在の思いを職員間で共有し、利用者の誇りやプライバシーの保護に留意している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者様がご自分のペースで過ごして頂ける環境にある。又、食事内容や入浴時間も希望があれば都度対応している。一人ひとりに合わせ、ご本人様の意思を引き出せるような声かけで働きかけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるものの、一人ひとりのペースや生活スタイル、体調に合わせて、できる限り希望に沿った1日が送れるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の購入や散髪など、希望があった際は予定を組み、個々に希望に沿えるように支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューによっては、一緒に調理する機会を作ったり、食事が楽しめるように工夫している。又、利用者様の力に合わせて配膳や片付けなども行った頂いている。	利用者との日々の会話の中で、季節や年中行事などに関わる食事の話など、食への興味や意欲を引き出している。調理方法など利用者から教わることも多いと話される。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量や1日の水分摂取量を職員全員が把握できるように記入し保管している。摂取量が極端に少ない方には、摂取しやすいように形態を変えたり、捕食で対応するなどの支援を行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様個々の生活習慣にも配慮しながら、一人ひとりに応じた口腔ケアを毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握している。定期的な声掛けや誘導を行うことにより、排泄の失敗やおムツの使用を軽減するなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の行動や仕草に注目し、声かけ、誘導を行うなど細かな気配りがされている。布パンツの利用者も多い。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や牛乳の摂取、繊維質の食材を食事に取り入れて便秘予防を行っている。又、個々の身体機能に応じて家事手伝いや散歩、レクリエーションなどで活動量を増やす働きかけも行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日に関係なく個々の体力や健康状態、好みの時間など個々の希望に沿った支援を行っている。	入浴日は決めておらず、希望すれば毎日でも入浴することができる。時間も10時から16時位まで対応可能。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に合わせ、ホールで過ごして頂いたり、居室で休んで頂いたり個々に合わせて対応している。居室内の温度や湿度にも気を配り、安心して気持ち良く眠れるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用中の薬の目的・副作用・用法・用量等をファイルや記録に残し、職員全員に周知している。又、医療関係者に薬の形態について相談したり、変化があった際には都度報告している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の身体機能に合わせた役割(食器拭き、掃除機掛け、モップ掛け、洗面所洗い、居室の掃除など)を無理のない範囲で行って頂いている。又、嗜好品は個々の健康に留意しながら、希望に沿えるように支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や花壇の手入れなど、利用者様が行いたい時にできるように支援している。又、ご家族様と定期的に外食に出かけている方もおり、ご家族様や地域の方々とも協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や菜園の手入れなど、職員は協力して利用者の希望に添えるように対応している。特に家族との外出にはできるだけ協力して対応している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を自己管理している方はおりませんが、日常生活自立支援事業を利用されている方がおり、自立支援員と連携しご本人様が希望時にお金を使えるように支援している。その他、立て替え購入だが、一緒に買い物に行った際は支払いを行って頂いたりしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が希望されたら電話をかけたり、ホームに電話を頂いたりやり取りができる様に支援している。 又、個々の能力に応じて手紙や年賀状、荷物のやり取り等も継続できる様に支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって不快感をあたえないように、朝の掃除以外にも定期的に掃除を行い環境美化に努めている。又、季節に合ったは貼り絵を毎月利用者様と制作してホールや廊下に展示したりと、居心地の良い共有空間作りに努めている。	風光明媚な田園の中にあり、良く風が通っている。居室、食堂、トイレなど共有部分も清潔に掃除されている。廊下やホールに貼られた利用者の共同制作の作品も環境になじんでいる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは自席以外にもソファを設置し、利用者様が思い思いに過ごせる様に支援している。又、玄関にイスを置くなどして、外を眺め季節感を感じて頂ける様な居場所作りに努めている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談しながら、使い慣れた家具、寝具を配置して頂いている。 又、全室に温度計を設置し、空調管理を行い居心地良く過ごせるように努めている。	持ち込みの家具など特に制限はしていない。利用者のご家族と相談の上、利用者自身の好みのレイアウトにされている。ベッド、布団等好みに合わせて対応している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりが備わっている。又、トイレや浴室には場所が特定できるように貼り紙を貼り、自立した生活が送れるように支援している。		